

令和 8 年度第 1 回恵那市総合教育会議会議録

日 時 令和 8 年 8 月 24 日（月） 午後 1 時 30 分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4 A 会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

①いじめ・不登校の現状と取組について

②特別支援教育の現状と取組について

出席構成員：恵那市長

教育長

教育委員

小坂 喬峰

岡田 庄二

西尾 修欣

小栗 秀子

樋田 東洋

村松 訓子

まちづくり企画部次長

まちづくり企画部企画課長

沼田 武利

瀬瀬 高裕

事務局：

副教育長

教育委員会事務局長

教育総務課長

学校教育課長

学校教育課主幹

教育総務課係長

学校教育課担当係長

伊藤 政之

西尾 功

瀬瀬 千尋

各務 義臣

遠山 意保子

志津 博光

堀内 賢司

開会（午後 1 時 30 分）

教育総務課長

皆さんこんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和 8 年度第 1 回総合教育会議を開会いたします。本日は教育総務課の瀬瀬が司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

この総合教育会議につきましては、市長と教育委員会が教育に関する施策等に対し協議や意見交換を進めながらその方向性を共有する会議となり、毎年 2 回ほど開催させていただいております。

本日は、小坂市長のほか市長部局としまして沼田まちづくり企画部次長、瀬瀬企画課長にも出席をしていただき 2 つの議題について協議、意見交換を行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の総合教育会議は、恵那市総合教育会議設置要綱第 5 条に基づき会

議を公開し、第6条に基づき議事録を作成し公表していきますのでよろしくお願いいたします。

これより次第に沿って進めさせていただきます。

1 市長、教育長あいさつ

教育総務課長

初めに小坂市長よりご挨拶を申し上げます。

市 長 改めまして皆さんこんにちは。本日は大変暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。先の熊本地震から約1か月が経過しますが、毎日ニュースを見ていますと、地震が起きたことは仕方がないにしても、避難されている方が、体育館や自宅、車の中などでエアコンがなくて、非常に苦勞されているということをよく耳にします。併せて、豪雨災害や大雨により湿気も多いということで、非常に大変だろうというふうに思っています。熊本の小・中学校でのエアコンの設置率を調べてみますと20%でございまして、10年前に熊本で地震があったとき以降、設置はしているのだけどなかなかついていけないということのようです。全国平均で見ても最新の数字だと31%だそうでございまして、そういう意味では小・中学校の体育館のエアコンはまだまだ途上だということでございます。恵那市については、既に100%完了しておりまして、全ての小・中学校にエアコンがついていますし、万が一、災害に遭ったとしても、体育館と学校だけは使えるようにということで、電気を使わなくてもガスヒートポンプですので、そこだけで完結できる、そんなエアコンの仕組みにさせていただいているということでございます。これは副次的な効果がありまして、私の孫たちは小学校に入る前なのですが、学童で昼から学校の中で遊んでいると大変暑いのですけれども、体育館にエアコンがあったおかげで体育館の中で遊ぶことができるというようなこともありますし、一部では授業もなかなか外ではできないので、体育館の中でできるのではないかとということで、熱中症対策にもなっているということも伺っております。1つの取組が防災・災害対策という意味でも非常に効果がありましたし、教育の分野でも効果があったということで、非常にやった甲斐があったというようなことも感じているところでございます。

本日の議題は、「いじめ・不登校の現状と取組について」、「特別支援教育の現状と取組について」でございまして。ぜひとも皆様から活発な御意見を賜りまして、今後の恵那市の教育に結び付けていけたらというふうに思います。どうぞよろしくお願い致します。

教育総務課長

続きまして、岡田教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長 本日総合教育会議を開催いただきましてありがとうございます。先週、岐阜県都市教育長会がございまして、県内の21市でいろいろなことを確認しました。その中で、体育館に空調を整備しているのは2市ぐらいで、これから一斉に整備するのは難しいので、少しずつ年月をかけてという市もありました。

そういう面では本当に教育行政だけではなくて、様々な教育活動に市からご理解やご支援をいただいております。感謝するばかりでございます。また、今日は市長さんと教育委員会が直接お話できる貴重な機会でございますので、ぜひ有意義な会にしていきたいということを思っております。説明はできるだけ短めにして、意見交換の時間を十分確保してもらえるといいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

①いじめ・不登校の現状と取組について

教育総務課長

いじめ・不登校の現状と取組について、教育委員会事務局から説明をお願いします。

学校教育課担当係長

いじめ・不登校の現状と取組について説明。

教育総務課長

事務局から説明がございましたが、教育委員の皆様からこの件に関しましてご質問やご意見等のご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

西尾委員 タブレットが学校現場に導入されてもう6年くらいだと思いますが、当初から、心の天気を活用しますという説明を受けた記憶があります。学校現場ではそれを使いながら子供の心の様子を見ていくというような取組をしてみえるはずですが、心の天気からいじめ事案が発覚、認知、そして解決したというような具体例があれば、お聞かせ願いたいと思います。

それから、子供に対する心のケアというのは学校現場の先生方あるいは専門の担当職員の方々にご尽力いただいているわけですが、先ほどの説明の中にもありましたけれども、保護者向けのケアというのは、今後ますます大切になってくるのではないかと思います。そちらの充実も図っていかねばいけないと思いますが、その辺りの計画があれば聞かせていただきたいと思います。

学校教育課担当係長

心の天気に関しては、子供たちの心の状態を「晴れ」「曇り」「雨」で表す形となっており、主に担任の先生がその状況を把握して、「雨」のときにその子に対して声かけをしています。コメントも書けるようになっているのですが、そのコメントに対しても些細なことであっても担任の先生が「聞き取る」「見取る」というところを行っています。児童生徒の小さな変化やSOS、どうしても子供が担任の先生に言えないことも、そういった心の天気を活用することで先生の早期発見・把握につながり、一定の効果を上げているというふうに考えております。

保護者のケアについては、最後に説明をさせていただいた「保護者同士が気軽に話せる場づくり」というものを今年度は2回計画しています。実際に6月に不登校の保護者の方とお話をしました。心理士の先生をはじめ、はなのき教室やむつみ教室の先生も一緒にその輪に入って、不登校の保護者同士で今悩んで

いることや解決したいことについて話をしました。今年度は11月にも開催する予定ですが、この機会がすごくいい機会だと思っていますので、来年度は、学期ごとに開催したいと考えております。

西尾委員 先ほどの説明の中で、不登校が数年間にわたって長引いているというようなお話がありましたので、正直なところ、年に2回では少ないという思いが実感としてあったものですから質問いたしました。来年度は3回、若しくはもっと増やすことができれば、その方向で進めていただけると良いと思います。

教育総務課長

そのほかよろしいでしょうか。

樋田委員 まず、いじめについてですけれども、法も整備されて、これに従事しないと法的な責任も問われるということで、そのことも踏まえて学校の先生方は頑張ってくださっていると思っています。けれども、恵那市だけではないわけですが、頑張っても頑張ってもなかなかゼロにならないということがあるわけで、先ほどの話であったように社会総ぐるみで取り組んでいくということを考えていかないと、いじめについてはなかなか難しいという感想を持っています。それで、ここにいる私たちがこれを考えるときに、何よりも必要なことは何かと私が思うのは、学校現場のリアルな状況をきちんと理解しておくことが大事ではないかということです。いじめの議論は抽象論であってはならないと、私も多少学校現場におりましたので思うわけですが、やはりそのリアルな状況について理解をする必要があるかと思っていますので、いくつかお尋ねしたいと思います。

いじめに関する指導で先生方が難しいと感じたり苦労されたりしていることは、恐らくあるのではないかと思います。例えば、先ほどの説明の中にも出てきましたが、対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものはいじめとみなすということになっているわけです。どんな些細なものでも、全て丁寧に対応するという建前になったわけです。けれども、実際に子供の世界を見ると、子供たちが苦痛を感じていることというのは日々の生活の中でたくさんあるわけです。そういう現実の中で、先生方が、あるいは親が、これはいじめとして取り扱うことが不適切ではないかと思うものもたくさんあると思うのです。その線引きについて苦慮されているということはあるのではないのでしょうか。そういう現実を我々が理解していかないと、やはり前には進んでいかないということを思います。それから、これはよく言われることですが、例えば先生が「これはいじめだ」と認知して、学校側として対応に乗り出していった場合、加害者側の保護者の方が「自分の子供を犯人扱いするのか」というようなニュアンスの受け止めをされるということもあると言われています。プライバシーや人権を盾にして言われるとなかなか踏み込めず、非常に難しい問題があるわけです。赤裸々な部分を全部知ることとはできないのですけれども、そういうことを私たちが理解するということが弱いといけないのではないかと思います。こういう場で敢えて申し上げるわけです。何かそうしたリアルな状況が分かるものがあれば、完璧に指導ができているとは誰も思っていないので、共有でき

ればということを思います。

学校教育課担当係長

今、問題となっていることは、インターネット、特にSNSによる被害が多くなっていることです。例えばある中学校では、SNSで卑猥な言葉を使い、「もしそれを実行しなければ別の棟に連れていく」といった内容の事案がありました。警察にも入っていただくなどして、解決には至っていますが、そういったSNSによるトラブルについては、学校としても関与していかなければいけないところなのですが、その線引きがとても難しいところでもあります。携帯電話を持たせているのは保護者の責任という言い方も変かもしれませんが、そうした側面もあるため、学校側がどこまで対応していくかというところが非常に難しい部分でもあります。いじめの認知件数については、学校によって、それをいじめとして捉えるかどうかという線引きが非常に難しい部分ではないかと思っています。

昨年度、ある学校ではいじめの認知件数が0件でした。学校の規模にもよりますが、実際に0件という学校もあります。それが本当に「0」かどうかというとその辺が少し難しいところなのですが、私が生徒指導研修の場で言っているのは、問題行動もいじめになるので、そこも認知してくださいということです。一方的に叩くなどの行為も問題行動なので、それもいじめとして認知してくださいと伝えています。

私は、令和元年7月3日に岐阜市で発生した自殺事案のあった学校に在籍していました。そのため、いじめや暴力行為に関しては、生徒指導研修の中でもその事案に触れながら、生徒指導主事の先生方には見逃さないようお願いしています。最悪のケースにつながる場合もあるということは、生徒指導研修の中でお伝えしています。いじめとして認知するかどうかに関わらず、問題行動があった場合には、そのことに関しても認知してもらい、どのようなことがあったのかについても、学校と連絡を取りながら把握するようにしています。

教育総務課長

そのほかよろしいでしょうか。

小栗委員 娘の学校で、同じ小学校から上がってきた子が学校に来られておらず心配していたのですが、以前、教育長訪問に行った際に、校内教育支援センターにその子が参加している様子を見て、すごく嬉しかったので、ぜひ小学校にも設置をお願いしたいと感じました。いじめだけではなくて、友達関係や疲れ、集団生活の難しさなどから、学校へ行かなくてはいけないけど行けないという子も増えていると思うので、そうした子に対しての指導やフォローもしていただきたいと思います。また、そうした子の保護者の方もすごく疲れてしまっていると思います。一生懸命声をかけているけれども、けんかになって、結果としてきつい言葉を言ってしまう、家から出てしまったというような話を聞くこともあります。そのため、保護者へのフォローもやはり必要なのだと思います。保護者同士の話し合いの場があることについて、不登校の子の保護者だけに伝えるのではなくて、全体に案内があると不登校になりかけているような状況の保護

者の方も参加できると思うので検討していただきたいと思います。

村松委員 4ページのいじめの様態のところ、一番下にある「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」というのが、割合少ないのですが、これからどんどん増えてくるのではないかと考えています。私は、心の相談員を20年くらいやっていて、地元の小学校にいたときには、高学年の女の子で不登校になった子や、いじめで来られなくなった子などを見てきました。その原因を見てみても、本当に様々で、その子自身の起立性調節障害で朝起きられないということだったり、自分で行きたいのに必要な物が揃わないという、ネグレクト気味の家庭の問題であったり、ある日突然仲良しのグループから無視されたといういじめの問題だったり、本当に様々な子を見てきました。ただ、共通して言えることは、やはりその子を孤独にしないということです。誰でもいいので話を聞いてあげることです。担任の先生でなくても、相談員の先生でなくても、スクールカウンセラーでなくても、周りに助けてくれる大人がいるということ認識させてあげることが大切だと思います。支援センターのような居場所ももちろんそうですが、そういった子供にできる限りの選択肢を与えてあげることが必要なのだと強く感じました。そういう環境を整えてくださっていることは、恵那の子供を見てきて本当にありがたく思います。どんなに悪びれても、不登校であったとしても、子供たちは見てほしいというところがあると思います。どのような家庭環境で育ったとしても、不安な気持ちや恐怖、嫌なこと、困ったこと、つらいことなどいろいろな気持ちを抱えています。そのようなときに、一旦否定せず受け止めてくれる大人が一人でも周りにいれば、その子にとっては大きな救いになるので、いじめや不登校、あるいは学校を休みがちなどだけで評価するのではなく、そういったSOSを常に周りの大人たちが捉え、担任ではないから関係ないということではなく、管理職の先生方も含めて、体制を整えていってほしいと思います。

樋田委員 不登校について、先ほどの説明の中の今後に向けてのところで、全校に校内教育支援センターを設置するとありました。当然、人が必要になってきます。予算要求はされていると思うのですが、なかなか100%というわけにもいかないとは思いますが、今想定しているものを全部設置すると予算規模で大体どのくらいかというものはあるのですか。せっかく市長さんがいらっしゃっているので、そういうものがもしあればということです。やはりそういう具体的なリアルな話をしていかないと、なかなか解決できないというふうに思います。不登校というのは、義務教育でありながら学校に来られない、来たくても来られない、あるいは行きたくないから行かないなど、いろいろあるかと思いますが、これはやはり最優先にしていかなければいけないことだと思います。これは誰もが当たり前に感じていることだと思いますので、そのことを一つお願いしたいと思います。

もう1点ですが、今日の説明の中で教育相談系の充実を図るということはいく分わかりました。しかしこれは、ここ何十年と日本の学校教育が、少なくとも戦後の学校教育がずっとやってきたことです。それですべて来ているのですけ

ど、それでもなかなか減らない。教育相談系の充実を図るとともに、もう一つ考えていかなければいけないことは、これまでの教育の在り方が本当によかったのかどうかということです。これは令和の日本型学校教育の答申の中ではっきり言われたことです。一律一斉を基本とした指導や画一的・同調主義的な学校文化があり、それが同調圧力となって不登校の要因にもなっているのではないかということは、経済産業省の「未来の教室」ビジョンの中でも触れられていますし、令和の日本型学校教育の答申の中でも言われていることなのです。そういう観点も入れながら、今まさに全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びということが言われています。個別最適な学びというものを、学校の研究内容ではなくて、もっと不登校などの解決とリンクさせて推し進めていくという視点を、教育委員会としても示していかなければ、なかなか進まないのではないかと思います。これは多分、今後もこの論議はいろいろな場でもしていけないといけないことになると思いますので、ぜひ、こうした令和の日本型学校教育の考え方を加味した論議ができるとよいと切に思っております。

②特別支援教育の現状と取組について

教育総務課長

ありがとうございます。そういたしましたら、2 議題目の方に入っていきたいと思えます。

特別支援教育の現状と取組について、教育委員会事務局から説明をお願いします。

学校教育課主幹

特別支援教育の現状と取組について説明。

教育総務課長

それでは、この件に関しましてご質問、ご意見がある教育委員さんにつきましては、ご発言をお願いいたします。

西尾委員 特別支援を必要とする児童生徒が、ほかの生徒と同じ学校へ通っているわけですが、一般の先生のみならず、そういった子供たちを支援する人手が必要になると思います。先ほど、樋田委員からも発言がありましたけれども、人を増やそうと思えば、当然それだけの費用がかかってくるわけですが、やはり手の数が必要だということは大前提であって、今後もそういった子供たちが増えていく以上、そういった手の数も増えていかなければいけないだろうと思いますので、機会があるごとにまたそういった方向を考えていっていただけるといいと思います。

教育総務課長

そのほかはよろしいでしょうか。

小栗委員 支援学級を担当される先生は、「そういう方向に進みたいです」と志願された方が研修を受けて担当されるのか、あるいは「今年からお願いします。」という形で依頼され、研修を受けて経験を積みながら担当されるのか、どういう流

れなのでしょうか。

学校教育課主幹

希望してなられる方もいらっしゃいますし、学校事情で管理職との対話の中で担当していただく方もいらっしゃると思うのですが、今年度、私が学校へ訪問させていただくと、皆さん前向きに捉えてやってくださっている先生方が多いと感じています。ただ、研修という点では、4月と同時に担任になるので、今までの現場での経験を生かしながらスタートしてくださっています。今年度で言いますと4月当初からたくさん声をかけているので、今後も学校支援訪問を使っただけいたらありがたいと思っていますところです。

樋田委員 市費の支援員さんの存在はすごく大きくて、この方々がいらっしゃらないと、学校は立ち行かないのではないかと思います。先ほど、かんしゃくや飛び出しがあるというお話がありましたが、今こうして私たちが論議しているこの時間にも、教室を飛び出している子が恐らく何人かいると思います。そういう状況です。人数は調査をした上で、必要数を割り振ってということですけど、正直なところ人数は足りているのでしょうか。人数が足りておらず、もっと増やしたくて予算がついたとしても人がいないということもあると思うのです。その辺のリアルな状況をもう少し教えていただけるとありがたいです。

学校教育課主幹

今年見ていると、4月当初は子供たちも頑張ろうという気持ちがあって、その学年をスタートしているので頑張るのですが、5月のゴールデンウィーク明けなどから順番に「我」が出てくるという感じになるので、一概には「足りている」「足りていない」とは言えない状況があるかと思います。全体的には、本当に一人でもいていただいて、温かく見ていただけると、子供たちも安心できますし、先生方の安心にもつながるのではないかと感じているところです。

教育長

年々増やしてきている状況はあるのですが、人がいないというか、もう頭打ちになりつつあるということもあります。それから、校内で配置をここだと決めるのではなくて、例えば半年ほどすると落ち着いて教室に座れるようになる子もいますので、その状況に合わせて学校の中で配置を変えるなど、今いる人が最大限活躍していただけるように取り組んでいるところです。支援員は、どれだけでも欲しいというのはそうなのですが、私個人的な意見にはなってしまうのですが、昔は、そういう子たちも含めて学級というところもありました。もっと言うと、担任の先生も支援学級に任せきりになってしまうというのか、支援員の方が来たらあの子を見なくてもいいというようなことになってしまうのは、それはそれでどうなのかと思って、その辺りが難しいところなのです。今、学校はかなり人がいるという受け止めをしてくださっているのですが、もっと欲しいということはあるので、これから人材の開拓もしていかなければいけないと思います。もしかしたら、子育てがひと段落して、こういった仕事をやっているという方もみえるかもしれないので、働きかけ方も考えていかなければいけないと思っています。

村松委員 他市と比べると、恵那市の通級の制度はすごく手厚いし、進んでいると思いま

す。職員が足りない中でも一生懸命ということがすごく分かります。グレーゾーンの子で特別支援学級に入るほどではないのだけど、少し息抜きをしたいとか、1時間か2時間マンツーマンで見てほしいけど、ここにそういう学級があるか分からないというような保護者の方の意見を聞くことがあります。私はこういうことをやっていて、通級という制度がありますという話をすると、驚かれます。単に情報不足なだけかもしれないですけど、この規模の市の教育機関でこういう取組をしてもらえているということはすごくありがたいと思います。たとえ一人になっても、その子にとっては大切な時間だと思います。通級に通っていた方で、今は成人された方からもそういう話を聞くので、大変ですけどぜひ、続けてほしいと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。今日は、まちづくり企画部から出席いただいているので、もし何かあればお願いしたいと思います。

まちづくり企画部次長

今日は、いじめや不登校、特別支援教育のお話を聞いて大変参考になりました。ありがとうございます。私、前職で社会福祉課の課長をさせていただいておまして、当時、重層的な支援の整備やひきこもりの支援にも取り組んできたところです。その現場でよく話を聞いたのは、今、小・中学校にはこういった学校の先生方やおっしゃられていたような各種の支える取組がたくさんあるわけですが、18歳を過ぎるとなかなか社会で支える仕組みがなくなってしまって、ひきこもりが加速化するということが多々言われております。全国でも約146万人という数字が出ているところです。今日も皆さんから統一してお話があったのは、学校だけでそういったものを支えるというのは非常に難しいという認識だと思います。そのため、福祉であったり、子育ての部門であったり、あとは地域です。この夏も地域でたくさんのお祭りがあって、子供たちがたくさん参加していると思います。そういったところと、さらには医療もあるかと思いますが、そういった多機関で連携をしながら、これから社会に出ていく子供たちを見ていくというようなところと一緒に、つくっていただければいいかと思ってお伺いをしました。特につなぎ続けていくというところはとても重要かと思っておりますので、先ほどそういったお話をたくさん伺いましたので、ぜひ、今後も一緒になって取り組んでいただければありがたいと思って聞いておりました。ありがとうございました。

教育総務課長

それでは、最後に小坂市長より、全体を通したコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

市 長

今日はありがとうございました。前半のいじめ・不登校の話と後半の特別支援教育の話、それぞれ聞かせていただきました。まずもって現場で頑張っている先生方、そして教育委員の皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。大変な現場だろうと想像できますので、そういう意味ではお骨折りいただいている皆さんに感謝と、このように感じたところであります。

いじめや不登校の話の中で少し気になったのは、やはり時代とともにラインが変わってくるだろうと思いました。特に最近ですと、SNSやスマートフォンが出てくる中で、その形態も変わってきますし、ボーダーラインも少しずつ変わってくるということを考えると、これは終わりなき取組になってくるということは一つ理解できました。そういう意味では、それぞれの子供たちの居場所をきちんとつくっていくということはとても大切だと思いますし、そういったところについて、市としてできるところがあれば、どんどん取り組んでいくべきだろうと感じたところでございます。

それから、特別支援教育の話で、私が市長に就任した頃からお医者さんの方からよく言われた話で、やはり小さいうちになるべく早くいろいろな手を打った方がいいということです。将来、この子供たちが税金を納めるようになるのか、税金のお世話になるようになるのかの境目というのは、本当に小さいうちにある、小さいうちからいろいろできることがあるはずだから頑張ってやったらいいのではないかというアドバイスをいただきました。それでできるだけことはやれるといいと思いながら、いろいろな取組を進めてきたところでございます。今はそれぞれの学校にいろいろなものがあるといいという話をお伺いしましたので、こういったところも一つ一つ取り上げていけるといいと思っています。最も大切なことは、今、国全体でいいますと、例えば、私立高校の無償化や給食費の無償化といったところで、割と政治的な色合いが強い中で予算の配分がされているのですけれども、本来は義務教育の話ですので、特に小・中学校は義務教育の中でも子供たちの一番基礎的なところを育てるところなので、そういうところの予算としてまずは国がきちんとやるべきだと思います。市が取り組むことは構わないのですけれども、市で言いますと、少し裕福なまちとそうでないまちで教育の質そのものに差が出ることは私は課題だと思っています。そういう意味では、恵那市がやるとかやらないとかいう話より先に、まず国にみんなの声が届くことが一番大切だろうというふうに思います。その上で、市としても今取り組むべき課題については、取り組んでいくべきだろうということもしています。この辺りはかかる費用や人の手配なども含めて、先ほど沼田が申し上げましたけど、他部局の話も絡めて、解決できる糸口を見つけていけるといいと感じたところでございます。今日は本当に参考になるご意見をいただきましてありがとうございました。

教育総務課長

最後に、岡田教育長よりコメントをいただいて終了したいと思います。よろしくお願いします。

教育長

今日は本当にありがとうございました。こういう貴重な機会の中で、教育委員さんからも、もっと現状を伝えてもらって、そこからアイデアを出し合ってやっていくことが大切だという話でしたので、またそういったことをしていきたいと思います。私は、いろいろな市の教育長さんとお話しながら感じるものがあって、恵那市は部同士の連携が進んでいるということを思っています。特に、教育に関してはこういう取組がしたいと言えば、こちらが言う前に違うところ

からも声をかけていただけたということもあるので、組織や人の力を生かしながら、まだまだできることがあればやっていきたいと思っています。

給食費の無償化のことがいろいろと話題になるのですが、お金は限りあるものなので、「それをどう使っていくのか」「計画的にどうしていくのか」「最大限活用するにはどうしたらいいのか」など、そういったことも含めて、要望ばかりではなく知恵を出しながら、相談をしていきたいと思っています。

今日はいろいろなご意見をいただけて、教育委員会としてもありがたかったですし、市の方にも聞いていただけたので、とにかく子供のためにということを大事しながら、また同じ方向で進めていけるといいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

教育総務課長

これをもちまして、令和8年度第1回恵那市総合教育会議を終了いたします。

閉会（午後2時40分）